



## 地球に「小さな太陽」をつくる

### 「夢のエネルギー」フュージョンエネルギー

ホルムズ海峡の緊迫化で、原油や液化天然ガス(LNG)などの供給が懸念されています。そうしたなか、フュージョンエネルギー発電に注目が集まっています。

私は、イラン攻撃が始まる前の2月初旬、茨城県那珂市にある国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構の那珂フュージョン科学技術研究所(那珂研)を視察。花田磨砂也所長らと意見交換を行いました。

フュージョンとは核融合という意味で、水素などの軽い原子核が融合する時に発生するエネルギーが「フュージョンエネルギー」です。



核という言葉から原子力発電と混同されますが全く別物。

"地上の太陽"と呼ばれ、フュージョンエネルギーの燃料1グラムから得られるエネルギーは、石油8トン分のエネルギーにも相当します。

さらに二酸化炭素や高レベル放射性廃棄物が排出されず、燃料となる重水素などが海水から無尽蔵に取り出せるため「夢のエネルギー」と言われています。

日本は、EU・米・露・韓・中・印と共同で国際熱核融合実験炉「ITER(イーター)」プロジェクト(フランスで建設中)に参加しており、那珂研は、イーター計画における日本の国内機関に指定されています。

実際の発電のロードマップとしては、2030年代後半に実証を完了し、その後10年、15年程度をかけてコスト面も考慮した商業炉の開発を進める計画です。



フランスで建設中のイーター

### 県内にサプライチェーンを

意見交換では、花田所長から「日本の企業は高い技術力を持っているが、我々のニーズが伝わっていないのが課題。神奈川県を通じて企業向けの見学ツアーの開催、専門家との技術マッチングや具体的な技術課題を共有する場があると嬉しい」との話がありました。

今後、県内の多くの企業がフュージョンエネルギーのサプライチェーンに加わるよう取り組んでいきたいと考えています。

※少し古い動画ですが、ホリエモンチャンネルの「人類最大の核融合炉「ITER」の建設現場を視察しにフランスまで行ってきました」が分かりやすいです。右のQRコードからご覧ください。

